

お知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の「お問い合わせ」へご照会ください。

【研究課題名】筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者における DAT-SPECT と MRI、神経心理学的検査の相関

【研究機関】独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

【研究責任者】高嶋浩嗣（脳神経内科 医師）

【研究目的】ALS は運動神経の通り道である錐体路の障害により進行性の筋力低下を来す神経変性疾患で、その原因は長らく不明でしたが、近年その多くで TDP-43 という異常蛋白質が脳に沈着し発症に寄与すると考えられています。従来 ALS は錐体路のみに病変がみられるとされていましたが、TDP-43 は運動障害や認知機能障害に関連する線条体という錐体路外への進展が見られます。ドパミンは線条体での主要な神経伝達物質で、その評価にはドパミン作動性神経に存在するドパミントランスポーター (DAT)へ結合する^[123I] FP-CIT を用いた DAT-SPECT が日常診療で使用されており、これまで検出できなかった ALS での線条体の異常を見つけることができる可能性があります。当院で診療の一環として DAT-SPECT を施行した ALS の方で DAT-SPECT と臨床症状や MRI 所見の比較をすることで、いまだ不明である ALS の病態解明に寄与できる可能性があります。

【研究方法】

（対象となる患者様）当院へ入院し ALS と診断された方

（利用するカルテ情報）MRI/SPECT などの画像検査、神経心理学的検査など診療で行った検査が対象です。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など個人が特定できる情報を除いて匿名化しますので、個人を特定できる情報が外に漏れることはありません。又、研究結果は、学術雑誌や学会等で発表しますが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。この研究の対象となる方で「ご自身の診療録（カルテ）は除外してほしい」と望まれる場合は下記問い合わせ先までご連絡ください。いかなる場合にも不利益を受けることは一切ありません。

【問い合わせ先】

〒420-8688 静岡県静岡市葵区漆山 886 番地

独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

TEL : 054-245-5446 （病院代表） FAX : 054-246-4586

Mail : takashima.hirotsugu.rw@mail.hosp.go.jp

脳神経内科 高嶋浩嗣